

第1回6月 東北大本番レベル模試 (2018年6月3日実施)

採点基準 英語

*この採点基準では、特に部分点・別解の判断を要する問題のみ取り上げています。

英語 配点表			
大問	配点合計	小問	配点
I	60	1	16
		2	6
		3	16
		4	6
		5	16
II	50	1	14
		2	14
		3	14
		4	4×2
III	40	1	6×3
		2	22
IV	50	(A)	25
		(B)	25

大問 I, II 設問形式別採点原則

〔和訳形式〕

- (1) 基本的にはすべての部分的誤りと語句の無視は、個別に指定が無い限り -2 。
- (2) 個別に指定許容された箇所以外のカタカナ訳は不可で 一語につき -2 とする。
- (3) 和訳という指示に従わず英単語をそのまま書いているものは、一語につき -2 とする。
- (4) 日本語の誤字は、別の意味にとられてしまうケースは -1 で、他は許容。
- (5) 各採点区分内で指定の点数を超えた時点で減点を行わない。
- (6) 区分された単位で意味が成り立たず、部分的減点が困難な場合は、その区分全体を0点。
- (7) 各採点区分の中で、途中で立ち消えた解答は、その区分については0点。解答が途中で終了していても、区分単位で完成しているものは採点対象。

〔内容説明形式〕

- (1) 基本的に下記の(3)(5)以外のすべての誤りは、個別に指定が無い限り -2 。
- (2) 語句の意味を誤ったものは個別に指定が無い限り -2 。
- (3) 採点枠内が部分的減点が難しいレベルで誤っているものは、配分点をすべて引く。
- (4) 個別に指定されたものと全訳で使われたものを除いてはカタカナ訳は不可で -2 。
- (5) 日本語の誤字等は、同音の別の意味にとられてしまうケースは -1 で、他は不問
- (6) 各配点区分において、区分点を越えた減点を行わない。
- (7) 二重の減点を避ける必要がある場合、必須要素と無関係の部分からとった不要要素は無視し、必須要素の有無と正誤のみで採点。
- (8) 解答文の結びの巧拙は、減点対象としない。
- (9) 各採点区分の中で、途中で立ち消えた解答は、その区分については0点。解答が途中で終了していても、区分単位で完成しているものは採点対象。

大問 I

問 1 (16 点)

【解答例】

しかしながら、機械学習は追加的な革新や将来的可能性を多く生み出す技術であることは明らかではあるが、機械学習システムが得意とする業務については、広く共有された合意が存在しておらず、したがって労働者や経済に対して予測される明確な影響については、一致した見解がほとんどない状態である。

【採点区分】

要素① However, although it is clear that ML is a technology which creates a number of additional innovations and capabilities, (6 点)

- (1) However, although の片方しか訳していないもの (-2)

- (2) it is ~ that ... という形式主語構文を理解できていない(−4)
- (3) ML は「機械学習」「機械が(自分で)学習すること」「マシンラーニング」などは可。
「機械的学習」「学習機械[機器]」は(−2)。
- (4) technology 技術」「科学技術」「テクノロジー」どれも可。
- (5) a number of は「多くの」「多数の」「いくつもの」「いくつかの」など可。「少数の」「若干の」「~の数」は(−2)。
- (5) additional は「他の」「他にも」は認めるが、「余計な」「余分な」などマイナスの訳語は(−2)。
- (6) create は「作る」「創作する」などは認めるが、「クリエイトする」は(−2)。
- (7) innovation は「イノベーション」「改革」「向上」は認めるが、「発明品」「新商品」は(−2)。
- (8) capabilities は「能力」「機能」は認めるが、「才能」は(−2)。

要素② there is no widely shared agreement on the tasks at which ML systems excel, (5点)

- (1) no が agreement 以外の語と結びついて訳されているもの(「共有されていない同意が存在する」など)は(−2)。
- (2) widely が明らかに agreement にかかる形容詞として訳されているもの(「共有された広い合意」など)は(−2)。
- (3) on は「については[の]」「に関する」「での」「への」「の」など認める。
- (4) tasks は「タスク」は認めるが、「義務」は(−2)。
- (5) excel で「他のものより」など比較対象を補ったものは可。
- (7) which ~を間接疑問風に「どんな仕事を得意としているか」などとしたものは(−2)

その他

There is no ~を「ありえない」など There is no *doing* の型と混同したものは(−2)。

要素③ and thus little agreement on the specific expected impacts on the workforce and on the economy. (5点)

- (1) there is を補って訳せていないものは(−2)。
- (2) and thus は thus が正しく therefore, hence の語感で訳せていれば可。
- (3) little は単に「ない」も認める(「ほとんどない」の「ほとんど」はなくても許容)。
- (4) agreement は「承諾」「了解」など認めるが、「賛成」「賛意」「協定」は(−1)。
- (5) specific は「特定の」「独特の」は認めるが、「特殊な」「特別の(な)」は(−1)
- (6) impact を「衝撃」「打撃」「インパクト」としたものは(−1)。
- (7) workforce は「労働力」「労働」は認めるが、「ワークフォース」は(−2)。
- (8) economy を「経済学」「エコノミー」としたものは(−2)

問3 (16点)

【解答例】 機械学習のシステムが、ある仕事において人間より費用対効果が高いということがはっきりするたびに、利益最大化を望む財界首脳や経営者は、ますます人間の代わりに機械を利用しようとするだろう。

要素① Each time an ML system proves itself to be more cost-effective than humans on a task, (7点)

- (1) each time を「～するたび」「する毎に」「～するとき (は) いつも[必ず]」などの接続詞として訳せていないなら(－2), 「～するとき」など each の語感を無視なら(－1)。
- (2) proves itself to be は, itself 自体を訳出していなくても文意が正しければ可。
- (3) cost-effective は「費用[経費, コスト]に無駄がない」「安上がり」「無駄がない」も可。
- (4) on a taskを直前のhumansにかけて「(ある) 仕事に従事する人間」という結びつきで訳したものは(－2)

要素② profit-maximizing business leaders and managers will increasingly seek to substitute machines for people. (9点)

- (1) profit-maximizingは「利益を最大化する」という意味と、それが財界首脳や経営者の意図や思考パターンであることが両方分かって2点。どちらかでも不適切なら(－2)。
- (2) business leadersは「経営者, 社長, CEO」等も許容する。
- (3) managerは「経営者」「管理職」「企業の長」「マネージャー」など認める。
- (4) increasinglyは「ますます」「どんどん」「さらに」「急速に」「今[前]にも増して」「いよいよ」「だんだん」「次第に」など。
- (4) seek to do は「～したがる」「～することを模索する」なども認める。
- (5) substitute は「代用する」「置き換える」「置換する」「取り換える」「交換する」など。
- (6) A for B ⇒ A と B の入れ替わりは(－2)。

問5 (16点)

【解答例】

技術革新に伴い、正確さと信頼性を伴って低コストで機械学習が進化することで、コンピューターがある仕事において最も優秀な人間を凌駕したレベルで仕事を行うプログラムを生み出す可能性があること。

[A] such progress の具体化 (8点) ☆点線部は必須ではない

技術革新に伴い, 正確さと信頼性を伴って低コストで機械学習が進化することで,

【必要要素と配点】

- (1) 「正確性」「信頼性」の該当部 (2点枠) ・どちらかのみでも可とする。
- (2) 「低コスト」の該当部 (2点枠)
- (3) 「機械学習」プラス「進歩」(4点枠) ・どちらかの欠如は(－2)

[B] どんな結果をもたらすか (8点) ☆以下の点線部は必須ではない

【必要要素と配点】

- (1) 「仕事で」 (2点枠)
- (2) 「最も優れた」 + 「人間 (の働き手)」 + 「を超 (越) 得た, を凌駕した」 (4点枠)
- ・ 「最も」の有無は不問。
 - ・ 「超えた」はより優れたの語感があれば他の表現も可。
 - ・ 上記要素の欠如は, 各 (−2)。
- (3) 「コンピュータープログラム」 + 「産み出す」 (2点枠)
- ・ 産み出すは「作成する」「発明する」等の文脈にあった表現はすべて可。
 - ・ 上記要素の欠如は, 各 (−2)。「プログラム」は無くても可。

大問Ⅱ

問1 (14点)

【解答例】

計算や言葉や数独などの認知力訓練となるゲームを練習してそのゲームについて向上を達成することで, その向上が日常生活も含めた他の分野での能力の向上にまで影響を与えることができるという可能性への, 誤った期待。

[A] 何についてのどのような可能性か (11点)

- (1) 認知力訓練のためのゲーム (2点枠)
- (2) 「計算[算数]」「言葉(探し)」「数独」の三つは各1点で, 原文と矛盾しない範囲での表現なら可。(3点枠)
- (3) (日常生活も含む) 他の分野[課題]での能力にも(3点枠)
- (4) (プラスの) 影響を与える ← 「寄与する」等も可(3点枠)

[B] illusion の文脈に即した意味 (3点)

- ・ 「誤った期待」「思い込み」「幻想」など「誤った想像」の語感が含まれるものが正解条件。
- ・ 「期待」「想像」などだけで, 「誤った」の語感が欠けているものは (−2)
- ・ 「幻(し)」「幻覚」は (−2)

問2 (14点)

【解答例】

脳トレが日常的認知作用に与える影響を研究するには, ある被験者に対しては訓練を行うという条件を, 他に対しては対照条件(訓練を行わないという条件)をそれぞれ無作為に与え, そして訓練の結果を測定して, 一連の実験を実施する以外に手はない。

要素① The only way to study the effects of brain training on daily cognition is

(1) study は「研究する」「解明する」「明らかにする」の他, 「学ぶ」も認めるが, 「勉強す

る」は(－1)。

(2) the effect of A on B は AB 逆に訳出したものは(－2)。

(3) brain training は「脳トレ」「脳[頭] (の) 訓練」「脳 (の) トレーニング」など認める。

(4) daily cognition の cognition を「認識」「識別」「知力」としたのも認める。

(5) 形容詞的用法の不定詞の誤認(－2)

要素② to conduct a series of experiments (3点)

(1) conduct は「行う」「する」「実施する」など。

(2) a series of を「様々な」「いろいろな」としたものは(－2)。

(3) 名詞的用法の不定詞の誤認(－2)

要素③ randomly assigning some participants to training conditions and others to control conditions, and then measuring the results of training

(1) randomly は「不規則に」「でたらめに」などは認めるが、「大雑把に」「雑に」は(－1)。

(2) assigning を「宿題として」としたものは(－2)。

(3) assigning A to B の AB を入れ違えた訳は(－2)

(4) (assigning) C to D の CD を入れ違えた訳は(－2)

(5) participant は「参加者」, 「協力者」は認めるが, 「実験者」は(－2)。

(6) training は「訓練[トレーニング]をする[受ける] (という)」「練習する」など認める。

(7) condition は「条件」は認めるが, カタカナや「状態」は(－1)

(8) control は「対照」「対比」「比較 (のための)」の他, カタカナも許容。

(9) some は「一部の者[被験者]」「ある者[被験者]」など認める。

(10) others を「他人」としたものは(－2)。

(11) assigning, measuring の「付帯状況の分詞構文」は「～して」「～することで」「～しながら」などと付加的な訳をできていれば可。

問3 (14点)

【解答例】

数独もクロスワードパズルも, それらを訓練した結果による向上は, 鍵の置き忘れや薬の飲み忘れなどの, 認知症や老化に伴いがちな他の認知的問題を改善することには結びつかないという点で同じである。

【配点と必須要素】点線部はなくても可

要素① 数独とクロスワードパズル (をやることによる向上) は (4点)

(1) それぞれ欠けていれば(－2)

(2) Sudoku ※英語のママ(－1)

(3) crossword ※英語のママ(－1)

(4) 「をやること」「を解くこと」などの有無は減点对照にしない。

要素② 鍵の置き忘れや薬の飲み忘れなどの (3点)

- (1) どちらでも欠けていればそれぞれ (−2)
- (2) *misplacing your keys* ⇒ 「鍵」の「置き場所」にかんする「忘れ」(または「ミス」)のことだと分かれは可。
- (3) *forgetting to take your medicine* ⇒ 「薬の置き場所を忘れる」は (−1)。
- 要素③** 認知症や老化に伴いがちな他の認知的問題 (3点)
- (1) *keep the brain sharp* の相当部分は、あってもなくても可。
- (2) *dementia and the cognitive effects of aging* は *and* の前後のどちらかでも欠けていれば (−2)
- * *dementia* ⇒ 語句注がついているので正訳以外は (−2)
- * *the cognitive effects of aging* ⇒ ・*effect* を「効果」とプラスに訳出したら (−2)
 ・*cognitive* は「脳の働きに関する」という語感を含んでいれば別解として広く許容。
- (3) 「他の」は「広範な」「一般的な」などでもよい。要は「数独やクロスワードパズルとは直接関係のない」という意味が出ていればよい。この要素が皆無だと (−2)。
- 要素④** 改善することには結びつかない (4点)
- (1) 「改善」への否定を述べた解答スタイルは広く許容する。

大問Ⅲ

問2 (22点)

【英語面での減点の原則】

- (1) スペル, 大文字小文字, 記号の誤り ⇒ 一律 −1
- (2) 単語の誤り ⇒ −2
- (3) 冠詞と名詞の数の誤り ⇒ −1
- (4) 文法的誤り ⇒ −2
- (5) 英文として不成立で部分的減点が難しい場合は、「句・節」単位での一括減点 −4
- (6) 原文からの語句レベルの引用は可。但し、文単位で一語一句すべて丸写しは 7点 ずつ引いていく。
- (7) 理由として論理的に破たんしているものは、「内容×」とし、内容点を別途 −5。
- (8) 理由が全て内容的に原文と重複している場合
 (ケースA) 挙げた理由が複数で、その内1つはオリジナル。⇒ OK
 (ケースB) 挙げた理由が会話すべて内からの借用。⇒ −18
- (9) 設問と無関係な解答は0点

【配点と必須要素】

- 要素①** 自分の述べる立場の明示 (4点)

(1) Do you think highlighters help you learn efficiently? という設問文を肯定文に変えて「ほぼコピー」で述べても可。

(2) learn を study に変えても可。

(3) highlighters は a[the] highlighter も可。

要素② 理由 (18点)

(1) 理由を述べている文だということをマーカーで明示していないものも、内容上理由になっているなら、「理由」として認める。

(2) 社会的 (科学的) 事実かどうか検証できない理由も可。

(3) 「解答には会話で触れられていない理由が少なくとも1 つは含まれていなければならない」という指示に反しているものは、上記原則の (8) 参照。

(4) The reason is that it is very useful. など、15 words未満の説明で終わっているものは、「内容不十分」で (-10) とする。また 7 words未満は (-18) とする。

大問IV

(A) (25点)

[例①]

When you look up the word sympathy in an English dictionary, the first definition of the word you see is “the feeling of being sorry for someone who is in a bad situation.” However, we should bear in mind that this definition is not perfect.

[例②]

When you consult an English dictionary to check the meanings of the word sympathy, the first meaning your dictionary tells you is “feelings of pity for someone else’s misfortune.” However, remember that this definition is imperfect.

要素① 英語辞典でsympathy という単語を引くと、 (6点)

(1) when は if でも可。

(2) 「(単語を) 引く」にwatchを用いたものは (-2) 。

(3) 「sympathy という単語」でthe wordが抜けているものは (-1) 。

ただし、sympathy にコーテーションマークがついていれば減点しない。

他の注意

*人の主語は you, we のどちらかとする。

*English dictionary は English-English dictionary も可。

要素② 「悪い状況にある人を哀れむという感情」 (6点)

(1) コーテーションマークなしは (-1)

(2) feeling の冠詞 ⇒ a/theのいずれも可。複数形も可だが、不可算名詞扱いは (-1)

要素③ と書いてあるのを一番最初に目にする (6点)

要素④ しかしこの定義は不完全であるということを心にとめておこう。(7点)

- (1) しかしはHowever, But, Neverthelessなど。Thoughは、文修飾として、文頭以外で使った場合のみ可。
- (2) 「不完全」を「正しくない」「良くない」「間違っている」と言い換えたものは(－2)。
- (3) 心にとめておくをstop in mind that ...としたものは(－2)。

(B) (25点)

[例①]

We know from experience that we always have a slight feeling of superiority when someone else is suffering a tragedy. This means that it is easy for us to sympathize with a person in trouble. But when someone we know is successful, how much “sympathy” do we feel?

[例②]

We know from our experience that it tends to bring us a slight sense of superiority to see someone else experiencing a misfortune. That’s why we easily sympathize with a suffering person. But when our acquaintances have attained success, how much do we “sympathize” with them?

要素① 私たちは経験で知っている (4点)

- (1) experience は複数形も可。
- (2) that は省略可。
- (3) from experience は文頭でも可。that節の内部にある場合は(－2)

要素② 他人が悲しい目にあっている時に若干の優越感を感じるものだ (8点)

- (1) 「若干」の欠如は(－2)
- (2) 「ものだ」は明確に訳出しなくても可。

要素③ つまり困っている人に同情することは容易なのだ。(6点)

- (1) 「人」は単複どちらも許容
- (2) 「に同情する」でsympathize/sympathiseの他動詞, feel sympathy[pity] withは(－1)

要素④ しかし、知人が成功を収めている時、どの程度の「同情」を私たちは感じるだろうか。(7点)

- (1) 「知人」は複はどちらも可。friend(s) も可。neighbor(s)は(－1)。
- (2) どの程度の「同情」の「同情」にコーテーションが欠けているものは(－1)。